1. 令和4年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△38．0ポイント。製造業は17ポイント、小売業は16ポイント、サービス業は4ポイント上がったが、建設業は6ポイント、卸売業は12ポイント下がった。前期の1～3月の△41．8ポイントから3．6ポイントプラスとなった。

業種／項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 69 (△ 60)	△ 50 (△ 61)	0 (△ 12)	△ 5 (△ 21)	△ 75 (△ 45)	△ 75 (△ 34)	△ 34 (△ 61)	△ 32 (△ 55)	17 (△ 61)	5 (△ 42)
採算		△ 57 (△ 33)	△ 57 (△ 47)	△ 19 (△ 32)	△ 22 (△ 37)	△ 34 (△ 44)	△ 34 (△ 22)	△ 30 (△ 46)	△ 38 (△ 42)	△ 52 (△ 53)	△ 37 (△ 32)
資金繰り		△ 7 (△ 29)	△ 19 (△ 29)	△ 10 (△ 28)	△ 15 (△ 30)	△ 11 (△ 44)	△ 22 (△ 44)	△ 27 (△ 36)	△ 32 (△ 34)	△ 38 (△ 51)	△ 23 (△ 41)
業況		△ 50 (△ 44)	△ 44 (△ 56)	△ 5 (△ 22)	△ 12 (△ 34)	△ 56 (△ 44)	△ 33 (△ 56)	△ 42 (△ 58)	△ 42 (△ 57)	△ 37 (△ 41)	△ 33 (△ 26)
経営上の当面する問題点	1位	材料価格の上昇		原材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞	
	2位	請負単価の低下		需要の停滞		仕入単価の上昇		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
	3位	官公需要の停滞		従業員の確保難		大企業の進出による競争の激化		消費者ニーズの変化への対応		新規参入企業の増加	
業種別コメント		原材料の高騰による建設費の圧迫により、売上高が9ポイント、採算が24ポイントマイナスとなった。一方、コロナ融資などにより資金繰りは大幅に改善され22ポイントプラスとなっている。しかしながら、官公需要の停滞が影響し来期見通しについては依然として厳しい状況が予想される。		資源・資材価格の高騰が続いているが、今期は全項目で大幅に回復が見られた。今後は長期化するロシアのウクライナ侵攻等により資材確保難が予想されるとともに、資材価格の高止まりが製品価格に転嫁できていないことから、来期見通しについては全項目でマイナスとなった。		原油・原材料の高騰や調達難、円安による輸入価格の上昇等の影響を受け、売上高が30ポイントマイナスとなった。採算、資金繰りは改善されたが、コロナウイルス収束の先行き不透明感も残っていることから業況は12ポイントマイナスとなっている。来期見通しについても需要の停滞が懸念され横ばいとなっている。		需要喚起やコロナ対策の緩和により、個人消費の回復が進み全項目でプラスとなり、売上高は27ポイントプラスと大幅に回復した。また来期見通しについても、原材料費高騰による価格転嫁が進んでいるものの、人流の回復に伴う景気回復の期待感から全項目でプラスとなっている。		まん延防止等重点措置の適用緩和により経済活動が活発化したことから全ての項目がプラスに転じている。来期見通しについてもコロナウイルス収束が加速するとの期待感から若干ではあるがプラスとなっている。	

とくに好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
(50≦DI)	(25≦DI<50)	(0≦DI<25)	(△25≦DI<0)	(DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※(　)は前回調査時のD･I値